

## 令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第二小学校

## 学校の教育目標

心の豊かな子ども・よく考える子ども・たくましい子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

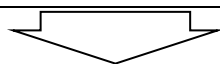
- ・基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、一人一人の習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。
- ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせる。

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	6年生の学習力サポートテストでは、我が国の言語文化に関する事項が区の平均を21.3ポイント下回っている。4年生でも同様に9ポイント下回っている。俳句や短歌、慣用句や故事成語、親しみやすい古文や漢語などに触れ、作品を作ったり、音読したりする機会を多く取り入れることが必要である。また漢字や言葉の特徴やきまりに関する事項について習熟を図り活用する力を付けることも大切である。	漢字や言葉の特徴やきまりについての理解は、実際に使う場を設ける必要がある。実際に使う場が減ったことが要因の一つとして考えられる。伝統的な言語文化については、小学校の低学年から触れる機会を意識してつくっていくことが求められる。
算数	6年生の学習力サポートテストでは、どの領域においても中央区の平均を2.1～6.0ポイント下回っている。4～6年生に共通していえることは、データの活用が4.0～8.4ポイント区の平均より下回っている。テスト問題を読み解き、応用力を付けることが課題としてあげられる。	学習の基礎基本の定着も大切だが、学習した内容の積み上げ、他の問題にも応用できるようにする力が足りないと思われる。
社会	社会科ではどの学年も、「社会的な思考・判断・表現」の領域について区の平均より1.7～5.1ポイント下回っている。社会的な思考が身に付いてきているが、その思考を表現する機会が不足している。	授業の中で自分の考えを発表し、その発表について意見を交わし合うような機会が少ないことが要因として考えられる。
理科	5年生の学習力サポートテストでは、「主体的に学習に取り組む態度」の領域について区の平均よりも8.2ポイント下回っている。また、6年生は4.4ポイント、5年生は6.8ポイントと区の平均よりも下回っている。教科としても5.2～3.8ポイント下回っている。	自然事象について、観察や実験を行う環境が少ないことが考えられる。また、復習を行う時間が他教科と比較して短いことが課題である。
英語	6年生の学習力サポートテストでは、どの観点においても区平均を下回っているが、特に「主体的に学習に取り組む態度」が区平均よりも7.1ポイント下回っている。また、目標値よりも4.0ポイント下回っており、早急に改善が必要である。	予め単元の目標を設定し、自分の学習の進捗を振り返りながら今後の見通しをもつという、自己改善のサイクルを定着させる学習が必要である。

体 育	都の体力調査では、1年生女子で握力は区平均を0.2ポイント、ソフトボール投げでは0.7ポイント下回っている。1年生男子、2年生においても同じような傾向がある。また、中学年・高学年では20mシャトルランが6年生女子で区平均を6.8ポイント下回っている。この傾向は中学年以降の男女にも同様に見られ、握力、投動作、持久力が課題である。	運動をする機会が少なくなっている。なわとびを軸に、他の運動に関しても体育の授業に取り入れていくことが必要である。
-----	--	--

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	言葉の学習や作文について、言語の知識・理解・技能の習得のために、個別指導の充実を図る。学習力サポートテストの国語において、区の平均に達するように、どの学年も教科の正答率2.0ポイントアップを目指す。
	算数	観点別の思考・判断・表現の領域について、どの学年も区の平均を目指して、2.0ポイントアップさせる。
	社会	観点別の思考・判断・表現の領域について、どの学年も区の平均を目指して、2.0ポイントアップさせる。
	理科	観点別の主体的に取り組む態度の領域について、どの学年も区の平均を目指して、2.0ポイントアップさせる。
	英語	観点別の主体的に取り組む態度について、どの学年も区の平均を目指して、2.0ポイントアップさせる。
	体育	固定遊具を使った運動を取り入れるとともに、体全体を使った投動作を計画的に取り入れる。また、持久力を高めるために本校の特色である縄跳びを通して、体力の向上を図る。縄跳びについては、全校児童の2割が2重跳びを50回できるように育成を目指す。
②授業改善	タブレット端末を積極的に活用した授業展開が行えるように、OJT研修会の中で、研鑽を積む。各教科の主任の先生方を中心に実践例の共有化を図る。	
③家庭との連携	タブレット端末を使った家庭学習を学年において、週に1回を目標として取り組ませる。また、保護者への連絡手段として一層の活用を考える。	
④体力向上	全児童に対して体力向上に向けた取り組みの充実を図る。児童の体力づくりにおける肯定的な自己評価をしている児童の割合85%以上を目指す。	



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	低学年から日記・作文などに定期的に取り組む。 図書館活用授業等、図書館を全学年週1時間以上活用し、学習と図書を連携させていく。

算数	授業内で図・式・言葉を相互に関連させながら、問題文の内容を正しく捉えられるような活動を重点的に行う。「データの活用」の学習について、他教科等の学習と関連付けながら、実際に調査を行い、グラフや表を用いた分析を1年に1回以上行う。
社会	多くの資料にふれ、資料の内容をよみとる作業を授業内に取り入れる。よみとった資料から分かったことを、タブレット端末を使って、まとめを作成させる。
理科	ミライシードのドリルパークを活用して、1週間に1回は家庭学習の中に理科の宿題配信を行う。児童の関心を高めるためにタブレット端末を活用して、自然事象についての観察を行う。
英語	授業の振り返りを適時適切に行う。自分の学習の様子や、成果とかだいについて自分で把握できるような機会をつくる。
体育	体育の準備運動で固定遊具を使った運動や体全体を使った投動作、持久力を高める縄跳び活動を取り入れることで、体力の向上を図る。また、集会や縦割り活動等、特別活動でも東京都の体力調査の結果を踏まえ、強化すべき体力を焦点化して、体力向上のための環境を整える。

## ②授業改善

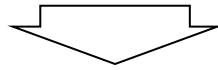
取組Ⅰ	すべての教員が、タブレット端末を積極的に活用した授業展開が行えるように、OJT研修会の中で、研鑽を積む。例えば、各教科の主任の先生方を中心に教科毎の実践例の共有化を図ることで授業改善を目指す。
取組Ⅱ	授業の中に話し合い活動を積極的に入れることで、児童が主体的に学習に取り組む態度を育てる。また、児童相互に意見の交換を行うことで、深く考える授業改善を行う。

## ③家庭との連携

取組Ⅰ	学校行事だけでなく、普段の学校の様子についても、Google Classroom を活用して、伝えていく。
取組Ⅱ	学校での取組や学習内容等、家庭に対して、タブレット端末を積極的に活用した連携を推進する。また、1週間に1回は、ミライシードを使用した宿題配信を行う。

## ④体力向上

取組Ⅰ	体力調査の結果を分析し、児童の体力や運動能力を客観的に把握することで、課題となる運動能力の向上に向けた取組を推進し、運動が楽しいと感じられるような授業内容を計画する。
取組Ⅱ	固定遊具を使った運動や体全体を使った投動作、持久力を高めるマイスクールスポーツの縄跳び活動、体を大きく動かす遊び等を通して、握力、持久力、基礎的体力・バランス力の向上を目指す。



### 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語		
	算数		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育		
②授業改善			
③家庭との連携			
④体力向上			